

美原通信

2015年8月

第50号

連携が脳卒中のアウトカムを左右する

脳卒中部門長 神澤 孝夫

当院の歴史

当院は、1963年に開設された脳卒中を主とした神経疾患の専門病院です。

近年、脳卒中治療において、内科的、外科的治療に加え、急性期からリハビリテーションを開始し、同時に様々な生活社会支援を築くことが強調されますが、当院は、開設当時から、「脳血管障害の急性期、リハビリテーション、そして家庭復帰まで一貫して治療にあたること」を目的として掲げています。これは、開設者、故美原博氏からの方針であり、現院長：美原盤に継承されております。また、特徴として、当院は脳血管研究所附属病院であり、所轄は、内閣府にあります。従い、脳血管障害の成因、予防、治療の研究がさかんに行われ、積極的に解明しようとする若い雰囲気を感じられる病院です。また、公益信託美原脳血管研究所振興基金を設立し、国内外より、医学進歩、人類福祉に貢献する研究者を奨励しております。

病院理念は、愛・和・学であり、「患者さん」には愛情を持って接し、スタッフ同士は互いに協力し合い、そして、学びつづけ、地域の皆さまにより良い医療を提供しようという願いが込められています。この理念をもとに、医師、看護師のみならず、多職種が専門性を追求し、「和」を持って力を発揮するといった実践的なチーム医療を構築し、さらに組織自ら、己の徹底した質の評価を行うことが当院の特徴といえます。私が赴任したのは、2008年ですが、この姿勢が、医療現場、各院内委員会に見られ、大学病院などの勤務が長かった私には、当時、驚愕でありました。当院は、2012年度、DPC対象病院の「実力」を反映する機能評価係数Ⅱが、全国トップとなりましたが、先に述べた組織力と自己評価の姿勢が、その源泉となっていると思われれます。



脳卒中科部門の開設・チーム医療の実践

脳卒中部門は、2008年より歩みだした新しい部門であります。当部門の使命は神経内科・脳神経外科・リハビリテーション科の3部門が診療科の壁を越え、診療を行い、そして、看護師、医療相談員、薬剤師、療法士など各職種と手を携えて連携し、チーム医療を実践していくことにあります。脳卒中診療は、rt-PA（アルテプラゼ）静注療法、血管内治療などの急性期血行再建療法に象徴されるように大きく変革しております。例えば、rt-PA（アルテプラゼ）静注療法には、発症4.5時間以内という時間的な制限があり、迅速な対応、適応判断ができなければ、時として致命的な症候性出血を生じる可能性があります。これらinnovativeな治療は有効であります。その出現は医療現場を変革させました。つまり、本治療法を安全かつ有効に実施するためには、まず病院内で診療システムの整備、チーム医療が必須です。具体的には、医師、看護師、薬剤師、検査技師、放射線技師との連携であり、それらが有機的に連鎖することが大切であります。当院の救急外来には、医師から情報を得るため、あるいは、有益な情報をときに患者家族から聞き出してくれるスタッフが、自然に集まり、rt-PAシフトを形成します。このことは、rt-PA治療のアウトカムにも反映されていると思われます。アウトカムを最も左右する予後因子は院内連携であり、いわゆる統計解析から得られる年齢、高血圧、糖尿病の有無などの因子とは異なるものです。写真は当院の医療を支える真髄とも言える救急外来の一コマです。

t-PA治療のアウトカム

t-PA投与3ヶ月後の modified Rankin Scale (mRS) 比較

	NINDS [*] (alteplase)	NINDS [*] (placebo)	J-ACT ^{**}	J-ACT II ^{***}	Nihara Hospital
age (mean)	68	66	70.9	70.3	72
baseline NIHSS (median)	14	14.5	15	12	11.0
mRS 0-1 at 3 months	39% (122/312)	26% (81/312)	36.9% (605/2767)	46.6% (27/58)	47.4% (28/59)
symptomatic ICH	6.4%	0.6%	5.8%	0.0%	1.0%



当院における臨床試験・研究

当院、当部門においては、自験例データベースでの臨床結果に基づいて最新・最善の医療を心がけると共に、様々な研究を通じ、先端的な医療をどうすれば患者さんに提供できるかをモットーに、学術活動を積極的に行っております。また、多くの臨床治験に携わっておりますが、その意義は、医学進歩に貢献することのみならず、当院の臨床現場にいかにか translate するかにあると考えております。この臨床研究においても有用なのは、スタッフとの有機的な連携であります。「なぜ、美原記念病院では、臨床研究が多いのか？」と質問されることが多くあります。その答えは、システムの効率化でも、データ解析でもなく、最も大切なことは、スタッフと共に活動することにあります。そして、これは現場にいないと伝わりませんが、潜在する美原盤院長の包容力にあると思われます。

今後、現場の医療知見をベースに、逆に大規模治験のエビデンスを検証していきたいと考えており、これは地域に脳疾患病院として根付いている当院のアドバンテージであり、役割の一つと考えております。



- CONTENTS -

表紙	連携が脳卒中のアウトカムを左右する	1
報告	医療法人イアリ 美原診療所について	4
	訪問看護ステーショングラーチア看護	6
	訪問看護ステーショングラーチアリハビリ	7
	てんぼくホール・ギャラリーMについて	8
	神経難病患者さんに対するリハビリテーション	9
	第17回脳卒中体験記 入選作品紹介	10
	第17回脳卒中体験記 入選作品紹介	10
外来診療医一覧表		12

公益財団法人脳血管研究所関連施設

医療法人イアリ

美原診療所

372-0048



群馬県伊勢崎市大手町 1-1

TEL 0270-25-0112

FAX 0270-23-5522

介護老人保健施設

アルボース

372-0006



群馬県伊勢崎市太田町 427-3

TEL 0270-21-2700

FAX 0270-21-2704

特別養護老人ホーム

アミーキ

379-2217



群馬県伊勢崎市磯町 435-1

TEL 0270-20-2121

FAX 0270-20-2197

訪問看護ステーショングラーチア



TEL 0270-20-7676

FAX 0270-20-7677

ヘルパーステーションパテラ

TEL 0270-20-7678

FAX 0270-20-7677



372-0048 群馬県伊勢崎市大手町 1-1

居宅介護支援事業所みはら



TEL 0270-20-1551

FAX 0270-21-2704

ケアプランセンターみはら

TEL 0270-20-1551

FAX 0270-21-2704



372-0006 群馬県伊勢崎市太田町 427-3

ホームページアドレス：<http://mihara-ibbv.jp/>

医療法人イアリ 美原診療所について

美原診療所 事務長 尾内 亮介

伊勢崎市駅前開発事業により、今年3月に伊勢崎駅南口の目の前に移転しました。3階建ての建物が2棟（建物名：研宗館西棟、東棟）あり、美原診療所は西棟の1階になります。

新診療所を建築するにあたり、診療所長がこだわったのは、「帰りたくなる診療所＝居心地のよい待合い」であり、柔らかく温もりある場所にした



いました。受付カウンター、カウンター横の壁面にある細工（桔梗紋、瓢箪）、そして、バルコニー。樹齢300年～600年の木をルーマニアから輸入し、宮大工が加工するという魂を込めた逸品です。また、敷地を囲むフェンスは、同じくルーマニアから仕入れた“鍛鉄”で、錆が入りづらく100年保つと言われるほどの風格と味わいのあるものです。これは一見の価値有りです。駅やスーパーのご利用ついでに、ぜひお立ち寄りください。当然、受診しなくてもOKです。「ルーマニアの木を見に来た。」とお声掛けください。大歓迎

いたします！

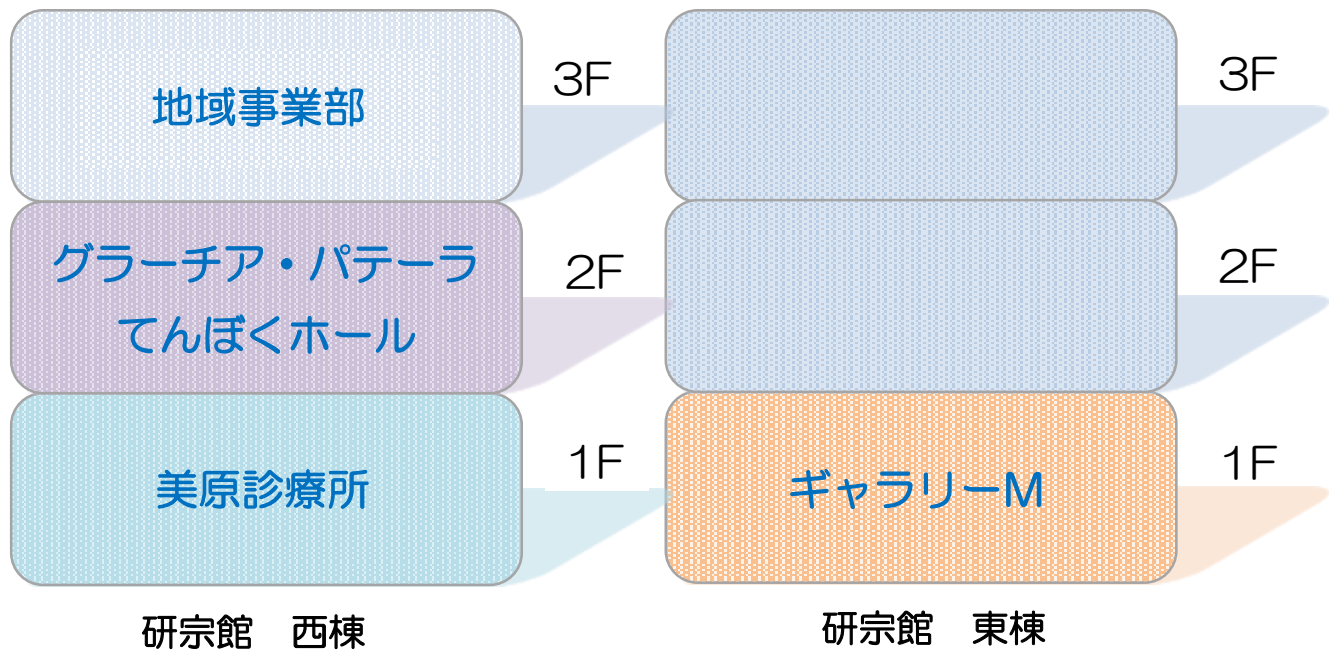
さて、診療所では、生活習慣病（高血圧、脂質異常症、糖尿病）を中心とした内科系疾患をはじめ、脳卒中の初期診断から治療後のフォロー、認知症の方の診療を行っています。また、訪問診察も積極的に行っています。通院が困難な方はもちろん、認知症の方、神経難病（パーキンソン病やALS（筋萎縮性側索硬化症）など）の患者さまなど、伊勢崎市内を中心に市外（前橋市、太田市、玉村町、本庄市）にもお伺いしています。



「訪問診察を利用したいが、手続き方法がわからない」、「家が少し遠いけど訪問してくれるの？」など、何かお困りごとがありましたら、いつでもお気軽にご連絡ください。



また、一般の皆さま向けの少人数制健康講話「たつる塾」の開催や、施設や医療介護従事者対象の「おしゃべり会」の開催など、地域への情報発信とともに、診療所をもっと身近に感じていただけるよう、美原診療所はこれからも『地域密着の“かかりつけ医”』として、皆さまの暮らしのお手伝いをさせていただければ幸いです。



【外来診察】 診察スケジュール

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
午前	○	○	○	○	○	○	—
午後	○	○	○	—	○	—	—

【訪問診察】 診察スケジュール

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
午前	○	○	○	○	○	○	—
午後	○	○	○	—	○	△	—

△：第2土曜日のみ

【受付時間】

午前 9:時~12 時 午後 2 時~ 5 時



【お問い合わせ】

美原診療所
群馬県伊勢崎市大手町 1-1
TEL : 0270(25)0112

訪問看護ステーション グラチア 看護部

訪問看護ステーショングラチア看護部 所長 井上 尚子

私たちの訪問看護ステーションは、正式名称を「美原記念病院 訪問看護ステーショングラチア」といいます。その名のとおり美原記念病院の在宅部門を担う一部署として1996年5月に開設しました。同財団運営の介護老人保健施設アルボースの一室をお借りして産声を上げ、その後2回の移転を経て19年目のこの春、ようやく一番の連携先でもある美原診療所の2階という絶好の場所に安住の地を得ることとなりました。1996年はその前年に阪神淡路大震災が起これり、社会的な不安が煽られた社会情勢でありました。そんな中、地域の人と人の繋がりや絆を大切にしながら、訪問看護師として何ができるのかを考え続けてきました。訪問看護も最近は知名度が上がり、テレビでも見かけますが、開設当時は「アルボースから来るお風呂入れの人」と言われることも多く、私たちが看護師であることを理解していただくのに苦労したこともしばしばありました。この場をお借りして、もう一度訪問看護は何ができるのか、皆さんにお知らせしたいと思います。

訪問時間は、30分以内から始まり、最長で1時間30分以内です。その患者さんの状態によって訪問頻度も週1回～ほぼ毎日まで増やすこともできます。体温や脈拍・血圧・酸素濃度などを測定し、その日の体調や食欲・排泄・睡眠などのお話し、訪問までの間に起こった不安なことなどを教えていただき、いま、看護師として介入できることを検討します。入浴や体を拭く清拭などの清潔ケアはもとより、排泄が困難な方のオムツ交換や排便管理、人工呼吸器やチューブ・ドレーン類などの医療機器の管理、床ずれなど皮膚トラブルの管理、主治医になってくださる医師と利用者さんとの橋渡し、ケアマネージャーとの連携、そして24時間体制で、なにかあれば、直接看護師と電話相談でき、必要があれば訪問も可能な支援が、訪問看護師の大きな役割でもあります。同じステーションで働く訪問リハビリのスタッフと協同して、看護師が行うリハビリや、リラクゼーション目的のマッサージも可能です。医療処置がなくても、「週に1回くらい医療者の目で生活を一緒に考えてほしい」や「難病や末期がんと言われたけどまだ本人は動くことは困っていない状態」でも、病院の外来ではできなかった「じっくり話を聴いて相談に乗ってほしい」と言うご希望に応えることができます。安心して住み慣れたご自宅で大切な人たちと過ごしていただくために、訪問看護ステーショングラチアをお気軽にご利用ください。



訪問看護ステーション グラーチア リハビリテーション部

訪問看護ステーショングラーチアリハビリテーション部科長 石森 卓矢

「訪問看護ステーションなのに訪問リハビリなの？」よくこのような質問をいただきます。訪問リハビリは、法律により、病院、診療所、介護老人保健施設、訪問看護ステーションの4つの場所から訪問することになっています。訪問リハビリステーションというものも実在しますが、国が定めた特別な地域にしか存在しません。美原グループでは、美原記念病院、美原診療所、介護老人保健施設アルボース、訪問看護ステーショングラーチアが存在しますが、なぜ訪問看護ステーショングラーチアに訪問リハビリが設置されているのでしょうか？

リハビリを行うには、栄養状態、排泄状態、皮膚の状態、血圧管理など、全身の状態管理を行う必要があります。入院中のリハビリでは、医師や看護師がその場でフォローし、それらの管理を行ってくれます。しかし、ご自宅では、それらの管理を全て訪問したリハビリスタッフが判断し、行っていかなくてはなりません。訪問看護ステーショングラーチアでは、訪問したリハビリスタッフが利用者さんの全身状態で気になることがあれば、訪問先でも経験豊富な事業所の看護師に連絡をとり、相談できる体制が整っています。そのため、リハビリをするスタッフもそれを受ける利用者さんも安心してリハビリに取り組むことができます。ご自宅でも、様々なリハビリを安心して利用者さんへ提供するために、私たちは訪問看護ステーショングラーチアからの訪問リハビリを行っています。

訪問看護ステーショングラーチアでは、看護師14名に加え、理学療法士6名、作業療法士3名、言語聴覚士2名が在籍しており、主に訪問リハビリを利用している方は約250名います。訪問リハビリの内容としては、利用者さんが生き生きとご自宅で生活していけることを目標に、ご自宅での運動のアドバイスやストレッチの指導、外で歩く練習、料理を作る練習、ゴルフ練習の付き添いなど様々なことを行っています。また、ご本人へのリハビリだけでなく、ご家族への介助指導や手すりや福祉用具設置の検討など、環境調整を提案させていただいております。このように、訪問リハビリでは、地域で暮らす方一人ひとりに合わせた多種多様なリハビリを提供させていただいております。

今後、超高齢化社会を迎えるにあたって、ご自宅での医療・介護のニーズが高まる中、益々訪問看護・リハビリの需要は増えてくることが予想されます。その需要に応えられるよう、訪問看護ステーショングラーチアは、2015年3月1日から、地域とのつながりの場として建設された研宗館西棟の2階へ移転しました。新たな場所で、より一層地域のニーズに応えられるよう、訪問看護ステーショングラーチア職員一同、精一杯努力していきたいと思っておりますので、今後とも地域の方々の暖かいご支援をよろしくお願い申し上げます。



てんぼくホール・ギャラリー*M*について

研宗館西棟（美原診療所 2F）の「てんぼくホール」、研宗館東棟 1F の「ギャラリー*M*」は、地域の皆さまにご利用いただけます。詳細は脳血管研究所 HP にも掲載していますので、ぜひご覧ください。

てんぼくホール 講演会、趣味活動、各種教室開催、コンサート開催などにご利用いただけます。



ご利用時間：午前 9 時～12 時 午後 1 時～5 時
 ご利用料金：午前 9 時～12 時 1,800 円（税込）
 午後 1 時～ 5 時 2,400 円（税込）
 収容人数（144 m²）机・椅子ご利用の場合：72 名
 椅子のみご利用の場合：100 名



ヨガ教室

毎週金曜日、ヨガ教室開催中！
 約 20 名で元気に身体を動かしています。
 ご興味のある方は下記お問い合わせ先まで
 ご連絡お願いいたします。

ギャラリー*M*

絵画や写真、アート作品、書などの展示、サロン、会議（最大 20 名）などにご利用いただけます。



ギャラリー内

ご利用料金：無料 広さ：約 63 m²
 開廊時間：午前 9 時～午後 5 時

【お問い合わせ】

脳血管研究所 地域事業部（研宗館西棟 3F）
 群馬県伊勢崎市大手町 1-1
 TEL：0270(27)4546



てんぼくふれあいカフェ

毎月最終土曜日、てんぼくふれあいカフェを
 開催しています。認知症の方、その介護をさ
 れている方など、どなたでもお越しいただけ
 ます。お茶を飲みながらホッと一息つきませ
 んか。

神経難病患者さんに対するリハビリテーション

美原記念病院で提供される神経難病リハビリテーション ～ その3

外来リハビリ

神経難病リハビリテーション科長 菊地 豊

Q：通院先の先生にリハビリを受けることを勧められ、美原記念病院を紹介されました。美原記念病院の神経内科の先生には、外来リハビリから始めてみましょう、と言われましたが、具体的にはどんなことをするのでしょうか？

A：当院の外来リハビリでは、筋萎縮性側索硬化症、パーキンソン病や脊髄小脳変性症、多系統萎縮症などの神経難病患者さんに対し積極的に行っています。

外来リハビリは、理学療法、作業療法、言語聴覚療法の3つの療法があり、患者さんの症状に応じて処方されます。各療法は1時間程度を目安に行います。頻度は最大で週に1回、状態の安定されている方でしたら、月に1回程度としています。

理学療法では、歩く、立つ、座る、起き上がるといった移動や基本動作についてのリハビリを行います。作業療法では手を使った動作（食事、服の着替え、身繕いなど）や、脳の機能（記憶など）のリハビリを行います。言語聴覚療法では、飲み込みなどの嚥下（えんげ）機能や言語機能についてのリハビリを行います。

神経難病患者さんに対する外来リハビリは以下の目的で行っています。

①短期リハビリ入院前の評価目的

前回の美原通信（No.48）でご紹介した短期リハビリ入院による集中的なリハビリが実施可能な状態にあるかを確認します。また、入院中に行うリハビリについての検討も行います。

②短期リハビリ入院後のアフターケア目的

短期リハビリ入院で獲得した運動機能改善効果の持続を確認、維持するためのリハビリを行っています。

③日常生活能力の向上、社会生活範囲の拡大

自宅で安全に生活出来るように福祉機器や自助具（装具、車いす、歩行器など）の選定や使用方法についてアドバイスを行います。

④活動低下の予防

自分の体の自己管理をできるように自宅トレーニングの指導をします。

何より大切なのは、外来リハビリを通して、日々の暮らしがどうすれば過ごしやすいのか、気付きを得ていくことです。「あ、こんな風にすれば、身体が楽に動けるんだ！」「いつもここで転びそうになるけど、こんな工夫で転ばないで歩ける！」といったように、どの様にすればより良く生活できるのかを患者さんご自身と一緒に考えていく過程を当院の外来リハビリでは大切にしています。

外来リハビリについてご不明な点がございましたら、お気軽にご相談ください。

次回以降、「どんな時にリハビリを検討すると良いのか」具体的な症状やお悩み事とリハビリが必要な場面について解説していきます。どうぞお楽しみに！

日本脳卒中協会 第17回 脳卒中体験記

入選作品紹介

毎年、日本脳卒中協会では、①脳卒中の患者さんやご家族の励みとしてもらい、②脳卒中に対する社会的関心を高め、③障害を持ちながら生きていくことの難しさについての理解を広めることを目的として脳卒中を体験した方から体験記「脳卒中後の私の人生」を募集しています。今年の選考で、当院に入院されていた斉藤歌子さんの作品が入選されましたのでご紹介します。

人間の身体は小宇宙

群馬県伊勢崎市 斉藤 歌子

私は平成二十四年十月二十八日朝方二時二十四分目覚めあり。何も気付かずにベッドより右足を床に着け左足、行動を起こそうとする手も足も動きが出来ない状態。「あれ！どうしたんだろう」と思いながら無理に右手で左足を下ろした途端ぐずぐずと身体を支えられなくなり、この状態でトイレ迄行き夢中で用を足し、ローカのカーテンつたいで部屋に戻る。携帯電話を手に階下に下りて、身支度をして息子に電話する。すぐに来てくれ救急車を呼び美原記念病院に入院と成った。

病名は脳梗塞と診断され、ベッドに釘付け状態。オムツ使用。不幸中の幸い、左半身不随だけで、脳、右手足、言葉の部分は助かった。

三日目から一日午前午後の二回リハビリが始まる。私は目標を立てた。先生方に看護師さんに無条件で全ての事を「ハイ」と受け入れ、前向きに楽しく取り組み早く治りたいと考える事が出来たのです。

伊勢崎市ボランティア協会に長年関与する中、「障害者に対する目的とは、物事をしてやるのではなく、させて頂く実践」でした。八十歳まで地域の輪を組み、共に生き、絆を育んできた。そして人様の為が自分の為であったと理解出来たのです。「病にもらった感謝」全く動かない手の指が動き人差し指が動き、次には合唱ができるように成り、ごはんの茶碗が持てるように成った。赤ちゃんが、這々ができ歩く事が出来た時のような喜びだった。

そんな時、私の周囲にいらっしゃる先生方、アルボースの先生、お友達が時々見舞って下さり、その行為に癒やされ力となり、感謝のみでした。多くの人々に恵まれ家族にも恵まれ、こうして生かされている私は幸せと思えた。

平成二十五年お正月も過ぎ、二月六日、主治医のS先生を中心に看護師Hさん、リハビリの先生I先生、N先生、患者家族として息子と私の六名での会議をもち、結果的に二月十四日退院決定の運びと成りました。其の後一週間、いろいろの雑念が頭の中を交叉しながら、たちまち退院の日、家族が迎えに来た。エレベーター前が人の波、その中に同室の東北地震に遭遇した池田さんもリハビリの先生に連れて頂き車イス姿。普段出ない声を思い切り出して別れた。あの瞬間、あふれる感謝の涙をおさえる事が精いっぱい、別れた。素晴らしい絆の宝物を胸に無事退院。家に着き、民生委員さんがステキなお花を手に私の帰りを待っていてくださった。

障害者と成った今、頂くばかりの生活だった私は自立して、世の中に何かお返し出来たら本望と思ひ、それから自宅での生活の先ず一歩から始まった。介護老人保健施設アルボース利用者として、通所リハビリテーション二月二十日訪問リハビリ初日、二月二十一日木曜日通所初日、次回は月曜日とお世話に成っている。一般棟の日課送迎車付きで午前九時入浴、十時ラジオ体操、十二時昼食、十四時レクリエーション、十五時おやつ、その間にリハビリを徹底した。生活快適な気分まで現在に至り、二年近い月日を過ごしている。正真正銘半身不随の障害者。前向きに楽しく、現代の制度に則り、てきぱきとした熟練された心やさしい介護の取り組み方に頭は下がります。

然し、自分の外側にある愛をこのままでは居られない、何か立ち上がる事はないか、ぼんやりとローカに出ては外を眺めることしばしば。自然の好きな私は「気づき即行」短歌が一人で出来る。五七五七七と三十一音にまとめてみる。基本的に詠む。すると脳の活性化を感じた。一人の時間はその部分を磨く事にした。上手にはできません。脳の体操に成ればと、楽しみ方に接し、ボンヤリする事からさよなら出来た。アルボースの絵の好きな友人は可憐な野草を書いて、私にくれたので、私はお礼に短歌を作って差し上げました。今起たずしていつ起つのでしょうかと、自分にムチ打ちながら、障害の雑念もよぎり、乗り越え、人間の身体は小宇宙であると感じながら、人は一人では生きられない、小さな事の積み重ねを怠る事なく遭遇する今日この頃です。

絵の友人とは、アルボースのお互いに病を抱えた波長の合う人、時々詠んだ作品を催促されます。勢いがつきます。癒し癒されつつの日々、心が温かく豊かになります。たとえどんな苦しいことがあったとしても、心の消化が出来る。神様に護られ生かされた「第二の人生」を、地道な努力の積み重ねで楽しく居られるコツかも知れない。病気から私の理念を貫いた、敢えて笑顔でいたいと思い過ぐす。なぜなら折角授かった「第二の命」を色褪せ輝きを失いそうだから、理念に没った人世をありっただけ、もう一度、型を変えても輝いてみたい。施設の中に立ち上がる仲間を一人でも多くみられる事を望み、活動を起したい。皆して元気でいたい。心をつなごう、手をつなごうと願って、止まずの心を馳せる。実践に励みます。



外来診察医一覧表

2015年8月1日現在

		月	火	水	木	金	土
神経内科	美原 盤	木村 浩晃	神澤 孝夫 (脳卒中)	美原 盤	神澤 孝夫 (脳卒中)	木村 浩晃	五味 慎太郎 (頭痛外来)
	片野 雄大 (脳卒中)						五味 慎太郎 (頭痛外来)
脳神経外科	志藤 里香	望月 洋一		赤路 和則	谷崎 義生		
整形外科			美馬 雄一郎				非常勤医師
内科			美原 樹	荒井 泰道			
循環器科	江熊 広海					江熊 広海	
特別外来 (予約制)	午前		脳血管内治療 赤路 和則 9:00~		パーキンソン病 大平 貴之 午前		ボトックス 美原 盤 午前
							パーキンソン病 大平 貴之 午前
	午後	リハビリ 担当医師 13:00~	脳卒中 片野 雄大 13:00~	神経難病 美原 盤 13:00~	もの忘れ 木村 浩晃 13:00~	もの忘れ 久松 徹也 13:00~	神経内科 高尾 昌樹 (不定期) 13:30~
					循環器科 江熊 広海 13:00~		セカンド オピニオン 担当医師 14:00~
ガンマ ナイフ	☆ ご相談に応じて実施いたします。						

○ 受付時間 午前8時30分~午前11時30分

○ 休診日 日曜日, 祝日

※年末年始, お盆による休診日や担当医の変更は, ホームページまたは院内掲示板にてお知らせいたします。

※受付時間・休診日ともに, 急患の方は, この限りではありません。

○ 面会時間 午後1時~午後7時

※3階病棟311号室~317号室は午後3時~午後7時

○ 支払い 入院費等の支払いは午前9時~午後5時までにお済ませください。



(公財) 脳血管研究所美原記念病院

群馬県伊勢崎市太田町 366

TEL : 0270-24-3355

FAX : 0270-24-3359

Institute of Brain and Blood Vessels